

2025年6月26日

日本生協連、コープ商品の米の新パッケージで石油由来プラスチック使用量を 年間約 37 トン削減

～7 月より植物由来ポリエチレンを使用した包材へ切り替え～

日本生活協同組合連合会

日本生活協同組合連合会（略称：日本生協連、代表理事会長：新井ちとせ）はコープ商品の米のパッケージを刷新し、環境に配慮した植物由来ポリエチレンを使用した包材への切り替えを 2025 年 7 月より順次実施します。対象商品はコープデリ生活協同組合連合会（略称：コープデリ連合会、代表理事理事長：熊崎伸）加盟の各生協、生活協同組合ユーコープ（代表理事理事長：當具伸一）、生活協同組合連合会コープきんき事業連合（代表理事理事長：小池隆博）加盟の各生協で販売いたします。



植物由来ポリエチレンを使用した包材を使用した「CO・OP 新潟佐渡コシヒカリ 5kg（普通精米・無洗米）」

7 月より順次コープデリ連合会で販売

第一弾として、米袋に植物由来ポリエチレンを使用しエコマーク認定を取得した「CO・OP 新潟佐渡コシヒカリ 5kg（普通精米・無洗米）」の 2 商品などを、7 月より順次コープデリ連合会で販売します。また、今後販売される 5kg の商品も、植物由来ポリエチレンを 25%以上使用した米袋に拡大していきます※。

※生協ごとに銘柄は異なります。

コープ商品の米袋は、これまでフィルムの厚みを薄くする取り組みを継続してきました。5 kg の米袋の厚みについては、100 μm（マイクロメートル）と 90μm の 2 規格を 2011 年に 90μm に統一。その後も 85μm、80μm と厚みを薄くすることでプラスチック使用量を削減してきました。

今回、袋の一部に植物由来ポリエチレンを使用することで、石油由来プラスチック使用量を削減するとともに、CO₂ の排出抑制にも寄与します。

日本生協連の 2024 年度実績に基づく計算によると、2025 年度内に植物由来ポリエチレンの使用を予定している 34 品の合計で年間約 37 トンの石油由来プラスチック使用量が削減できる見込みです。新潟佐渡コシヒカリの 2 商品の包材だけでも、年間約 3 トンの石油由来プラスチック使用量が削減されます。

日本生協連は、「[コープ商品の 2030 年目標](#)」において、再生プラスチックと植物由来プラスチックの使用率を 50%以上とすることを掲げており、持続可能な生産と消費のために、環境に配慮した商品の開発、普及に取り組んでまいります。

＜お問い合わせ先＞
日本生協連広報部
TEL：03-5778-8106